

11月30日
発行

愛媛県立中央病院広報誌

和春日小 はるびよ

2021年
第53号

ご自由にお持ち帰りください



愛媛県立中央病院の外来診療を「LINE」でスマートに！

当院では、新型コロナウイルス感染症の「密」対策として、2021年4月に第一弾【自動受付システム】を導入しました。患者さんが受付票のバーコードをこのシステムにかざすだけで到着確認ができます。

そして、9月より第二弾【LINEによる呼び出し状況通知サービス】を開始しました。これは、診察・会計をお待ちの患者さんへ、待ち時間などの状況をLINEで自動的に通知するシステムで、車の中やカフェ、食堂などで待つことができますようになります。また、一度診察券登録していただくと、次の来院時にも、自動で診察・会計の状況が患者さんのLINEに通知されます。今後も患者さんに、よりスマートに診療を受けていただけるよう、システムの更新も随時行いますので、ぜひご利用ください。



お呼び出し状況が
LINE でわかる！



スマートフォンで簡単登録！

LINE を利用すると、混雑しているところで待つことなくゆったりと過ごせます！

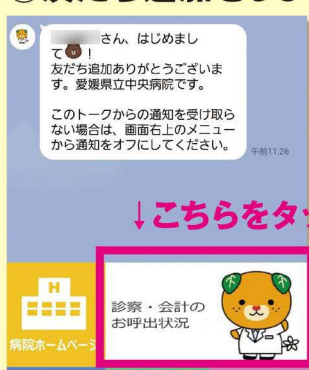
登録
ステップ

①登録用QRコードを 読み取ります



画面の案内にしたがって
進めてください

②友だち追加をします



↓こちらをタッチ

③患者登録を します

受付票に記載の
「受付番号」と
診察券に記載の
「診察券番号」
「生年月日」を
入力してください。
※当日のみ、受付
番号だけの利用
も可能です

愛媛県立中央病院 | EPARKで診察まち

愛媛県立中央病院

待ち状況をLINEの通知でお知らせします。

受付番号 (必須) **8888**

診察券番号と生年月日を入力すると、次回以降登録が不要です。

診察券番号 (任意) **8888888888**

生年月日 (任意) **1950/01/01**

次へ

診察まち 利用者設定

④診察・会計のお呼び出しの通知が LINE に届きます



「診察」をお待ちの患者さん



診察室前へ

「会計」をお待ちの患者さん



自動精算機へ

LINE を利用した
診察・会計の
流れはこちら



※ LINE および LINE ロゴは、LINE 株式会社の登録商標です。 ※ QR コードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

【発行】愛媛県立中央病院 松山市春日町83番地 TEL : 089-947-1111



ホームページは
こちらきん!



「造血幹細胞移植推進拠点病院」としての活動紹介



当院は、2015年（平成27年）厚生労働省の造血幹細胞移植医療体制整備事業に、四国ブロックの拠点病院として認定され、四国全体の移植医療のレベルアップと患者さんの生活の質（quality of life）を向上させることを目標にして、事業を進めています。

人材育成のためのセミナーを、集合形式で年数回開催していましたが、コロナ禍で困難となり、昨年の秋からオンライン開催に変更しました。もともと、四国内の移動が大変であったため、オンライン開催は好評で、四国外からの参加も増えています。

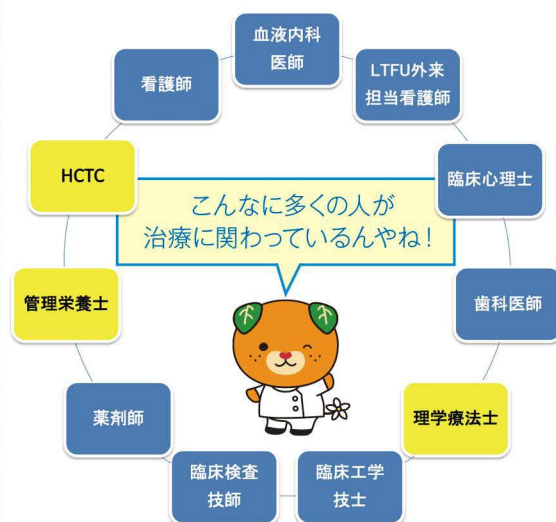
2021年8月のセミナーでは「社会復帰を目指した移植医療」というテーマで、栄養管理やリハビリについて、京都大学医学部附属病院の医師・理学療法士より、長期フォローアップ外来について、国立がん研究センター中央病院の看護師よりお話をいただきました。これからも、魅力あるセミナーを開催し、新しい情報を取り入れ、移植を受ける患者さんのために、更に質の高い移植医療を目指していきます。



▲オンラインによる四国ブロックセミナーの様子



▲当院の移植チームメンバー



チームメンバーからのコメント



HCTC 中矢

当院では、様々な職種の医療者が一丸となり、院外の関連機関と連携を図りながら造血幹細胞移植の成功に向けて、患者さん・ご家族・ドナーの皆さんをサポートしています。私たちHCTC（造血細胞移植コーディネーター）は、全ての職種や関連機関と連携を取り、安心・安全な移植治療へ向けて日々奮闘しています。移植に関する悩みや質問があれば、いつでもお声がけください。

最近では、これまでは不可能であった高齢者や合併症をもつ患者さんへの移植の適応が拡大しています。このような背景から、身体的・精神的機能低下に対して、運動療法を中心としたリハビリテーションの重要性が高まってきています。当院では、患者さんの早期社会復帰に向けて、理学療法士が移植チームに参加しています。



理学療法士 木口



管理栄養士 乃万

造血幹細胞移植において、栄養管理は大変重要であり、食事はそのための基本となります。当院では、管理栄養士が移植前から関わり、自宅での食事や病院食について相談を受け、一人ひとりに合った栄養サポートを行っています。食事について困っていることがありましたら、お気軽にお声がけください。

診療科紹介 総合診療科



当院は地域医療支援病院として、地域医療機関から多くの患者さんを紹介していただいています。

当科では、詳細な病歴聴取と身体診察・検査を行い、必要に応じてさらに高度な精密検査を行ったり、専門診療科に相談したりします。対象は、重症の急病、心の問題から来るさまざまな身体症状、検診異常への対応など、幅広く軽重さまざまです。

最近では、コロナ禍の影響を受け、いろいろな不調を訴えてこられる患者さんが増えています。

時代や社会状況によって患者さんの持つ健康問題は変化しています。

当科は、そのような変化に柔軟に対応し、患者さんがよりよい生活を送れるようにサポートしていきます。

総合診療科ってどんな診療をするの？と思われる皆さんへ

- 1 「〇〇専門」ではなく、基本的に患者さんのあらゆる健康問題に対応する診療科です。



不明熱



胸痛



腹痛



ストレスによる身体不調 等



- 2 患者さんのさまざま複雑な健康問題を総合的に診て、問題解決のために包括的アプローチを行っています。
- 3 診療にあたって、最新の情報を活用できるように常に研鑽し、能力を超える問題については各専門医や他の医療職に相談して支援を得ています。
- 4 患者さんの信頼を得るように努め、患者さんとその家族中心の医療を行っています。
- 5 患者さんの生活には、保健、福祉、介護、地域社会の果たす役割が大きいので、院内外のさまざまな職種とチームを組んで患者さんの生活を支えています。
- 6 禁煙外来などの予防医療も重視しています。患者さんの将来の健康を展望して、生活指導を行っています。



禁煙や禁酒などの予防医療



運動療法などの生活指導



当院の
ドクターを
紹介します

ドクターズカルテ

形成外科 いしの けんたろう
石野 憲太郎先生

Doctor

2013 年より形成外科で勤務している石野憲太郎です。

形成外科は、日本では約 60 年前に各大学病院の整形外科、耳鼻咽喉科、皮膚科など様々な診療科内の診療班から徐々に独立してきた診療科です。

そのため、日本形成外科学会の定める疾患領域は非常に広範囲なものとなっており、母体となった大学によって扱う領域に違いがあることも多いです。

当科は、長崎大学形成外科に関連しており、長崎大学形成外科が整形外科内の診療班だったこともあり、どちらかというと顔面・手足の外傷の診療が多いのですが、咬合異常などの顎顔面外科領域、腫瘍切除や組織欠損に対する再建、先天異常等の治療も行っています。

現在、主任部長を含めて医師 4 名で対応しており、少ない人数ですが外来の診療にも 1 名あたっています。平日には、ほぼ毎日手術を行っているのですが、休日は、家でゆっくり過ごしています。



形成外科の治療

顔、手足などの体表面の傷や変形などをきれいに治すことを目指しています。

例



やけど



痣や腫瘍



顔面骨折

当院の
研修医を
紹介します

Resident

1 年次研修医
たかおか まさひろ
高岡 将彦先生

日頃気を付けていることは何ですか？

わからないことはすぐ調べたり、指導医の先生に聞いたりすることを心がけています。診療現場では、わからないことが多く、一つずつ解決していくようにしています。

仕事以外の過ごし方を教えてください。

時間があるときは遠出をしています。今は新型コロナウイルス感染症の影響で、遠くに行くことは全然できません。大学は県外で過ごしており、愛媛のことをあまり知らないの、落ち着いたらまずは県内の景色がきれいな場所やおいしい食事ができるお店に行ってみたいです。

今後の目標は何ですか？

研修医 1 年目でまだまだ足りないものが多く、毎日いろいろなことを先生やスタッフの皆さんに教えていただき、学んでいるところです。少しでも患者さんにより良い診療ができるよう頑張っていきたいと思っています。



▲中心静脈カテーテル講習中に、エコー下での針の当て方を教えてもらっている様子（右側）



▲大学時代に訪れた本州最南端 潮岬（和歌山）



内視鏡室では、消化器及び呼吸器疾患の診断と治療を目的とし、日々の診療を行っています。

胃がん・大腸がんといった消化器系腫瘍は、日本人の死亡原因の上位を占めていますが、早期発見すれば、内視鏡手術で治癒することができます。そのため、いかに早期発見・早期治療を行うかが非常に重要です。

内視鏡検査は、どうしても、つらい、怖いといったイメージがあるかと思いますが、当院では安全性を確保した上で、検査時の痛みを最小限にし、安心して検査を受けていただけるよう、スタッフ一同心がけています。

当院が、2013年に新病院に移転した際に、上下部消化管内視鏡室4室に加え、透視併用の内視鏡室2室、緊急内視鏡用検査室1室を設置したため、緊急内視鏡検査も受け入れやすくなりました。また、超音波内視鏡装置が一新され、診断能力が向上しました。そのほか、大腸内視鏡検査前の下剤の服用などに対する患者さんの不安を解消するため、前処置室を設けて、トイレも7室に増設しています。

最近は患者さんが自宅での前処置を行うことによって、検査が停滞しないように努めています。これにより、内視鏡検査数も増加傾向にあります。2020年度はコロナ禍のため、不急の検査を制限しながらも、対策を立て、安全に行うことができました。

「正確な内視鏡診断を行い、最新で高度な内視鏡治療を安全に行うこと」を診療方針として、内視鏡室では、新しい機器を導入しレベルアップを図り、多様化する治療にも即対応できるように取り組んでいます。これからも皆さんに安心して受けていただける内視鏡検査・治療を目指し、自己研鑽を怠らず、知識・技術を磨いて参ります。



診療棟2階にて
お待ちしております！



この部分を操作し
調整します。

内視鏡カメラを左手で操作し、前後左右に調整することによって、各器官を直接観察しています。



先端部分が、
医師の操作によって
動きます。

内視鏡カメラには、白線が引かれ、到達点分かるようになっています。



リアルタイムでスクリーンに映し出された様子をしっかりと確認し、診断を行います。



SDGs と病院

SDGs（エスディー・ジーズ）とは、「誰一人取り残さない」という理念のもと、「世界の貧困をなくす」「持続可能な世界を実現する」ことを目指した国際目標です。

ニュースなどでよく目にするロゴで示された 17 のゴール（目標）と、その下にある 169 のターゲット、231 の指標によって構成されています。SDGs は 2015 年の国連サミットで採択され、2030 年を達成期限に、日本でも、政府はもちろん企業や地方自治体などで、積極的な取り組みが始まっています。

「すべての人に健康と福祉を」は、全ての病院が目指すべき達成目標とされています。その他のゴールについても、地域に根差した施設という観点から、率先して活動をしている病院が多いようです。例えば、地場産食材を使用した病院食の提供による、「つくる責任 つかう責任」への貢献や、他院医師の手術見学受入れや臨床研修医および看護学生の実習・研修・見学の受入れなどによる、「質の高い教育を、みんなに」への貢献に取り組んでいます。

**SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS**



食品ロス削減運動

サンマルクカフェと一緒にチョコっと ECO はじめませんか？

サンマルクカフェ最大のこだわりは「焼き立て」ですが、新型コロナウイルスの影響もあり、現在は焼き上がったパンを一度冷まし、個包装したものを販売しています。

一時期はパンの種類を減らし「焼き立て」の提供にこだわって見たものの、お客様に寂しい印象を与えてしまったため、現在の販売方法としています。こうした取り組みの中で、パンの種類を増やしていくにつれ、廃棄量も増えていたことが、以前は「仕方ない」と思っていた『食品ロス』は、深刻な問題であると気づく機会になりました。

サンマルクカフェでは『食品ロス』を減らすため、次の取り組みを始めています。

①ECOサンド：対象商品を購入いただいた方にコーヒー M をプレゼントします。

②ブレッドレスキューパック：3つのパンをパックにして300円（税込）にて提供します。

※商品の状況に応じて変更する場合がありますが、①は16:30頃を②はお昼前と17:30頃の2回を目処に実施します。



ブレッドレスキュー
パック

サンマルクカフェの『食品ロス』を減らす取り組みへのご理解をお願いするとともに、機会がありましたら、ぜひサンマルクカフェをご利用ください！！

『食品ロス』とは？

『食品ロス』とは本来食べられるのに捨てられてしまう食品のことで、日本の『食品ロス』の量は年間612万トン（日本人1人当たり約48kg／年、お茶碗1杯分のご飯相当量／日）にもなります。



ECO サンド

（2021 年 11 月現在）



転入・転出医師 (2021.9.1 ~ 2021.11.30)

転入

所属	氏名	専門
救急科	二宮 鴻介	専攻医
麻酔科	上松 敬吾	麻酔一般、集中治療
麻酔科	菊池 由莉恵	麻酔一般
新生児内科	加藤 裕樹	専攻医
糖尿病・内分泌内科	渡部 杏子	内分泌代謝疾患
感染症内科	上田 茉世	小児感染症
放射線科	岡田 加奈子	画像診断全般
放射線科	瀧本 綾鹿	放射線治療全般
脳神経外科	古川 浩次	脳血管障害、頭部外傷、 脳血管内治療
心臓血管外科	坂本 裕司	専攻医
耳鼻咽喉科	高木 亮太	専攻医

転出

所属	氏名
救急科	田中 健一郎
麻酔科	田中 聖也
産婦人科	瀬村 肇子
糖尿病・内分泌内科	塩見 亮人
放射線科	喜田 有佳里

雄郡神社大神輿「新巴講」の院内巡行

2021年10月7日、雄郡地区の雄郡神社大神輿「新巴講」の神域巡町として、当院敷地内にて、御神輿の巡行と鼓楽奏団「庵灯鼓（あんびこ）」による太鼓演奏をしていただきました。

当院の患者さんも、診療棟の外から聞こえる太鼓の音に胸を弾ませ、秋祭りの雰囲気を楽しんでいました。



▲鼓楽奏団「庵灯鼓（あんびこ）」による打ち鳴らし



▲左より、事務局長、新巴講大頭取、院長



▲御神輿と当院

ありがとうございました！



自分の心や身体を大切にしていますか？

今回の話は、自分で自分を快適にする毎日のちょっとしたヒントの話です。

皆さん、「何となくだるい」「元気が出ない」「寝ても疲れが取れない」「眠れない」など、様々な症状を感じていませんか。このような症状は、慢性的なストレス、不規則な生活、食生活の乱れ、運動不足によって、自律神経が乱れて起こるといわれています。心当たりはないですか？

「そういえば」と思う方は、次の3つのことをしてみるといいかもしれません。

1. ゆとりのある朝を迎える

朝、10分でもいいので早めに起きて、窓を開け深呼吸をする。

朝の光をしっかり浴びると「さあ、これから活動するぞ」という体になります。

2. 起き抜けに水を飲む

朝の起き抜けは軽い脱水状況になっているといわれています。

そこで水を補給する。これが心身への活動スイッチになります。

3. 散歩を15分程度する

軽い運動をすることによって、体のエネルギーを発揮しやすくなります。ラジオ体操でもいいのですが、季節を感じつつ歩くというこの動作が、心を豊かにしてくれます。

安全な世の中は、みんなで作るものです。ざわざわ、イライラした心を落ち着けて笑顔で過ごすことができれば、人との繋がりもうまいくでしょうし、トラブルも少なくなります。そして、安心・安全はおのずと得られるのではないかと思います。

医療安全
管理部だより
No.47



連携医療機関紹介 ～第24回～

今村循環器科内科

- 所在地 松山市古川西 2 丁目 3-23
- TEL 089-957-2155
- 診療科目 循環器科・内科
- 外来診療時間 休診日 木曜午後・土曜午後・日曜・祝日

	月	火	水	木	金	土	日
9:00～12:30 (受付は9:00～12:00まで)	○	○	○	○	○	○	×
14:00～18:00 (受付は14:00～17:30まで)	○	○	○	×	○	×	×

【病院の概要】1993 年 5 月、椿神社裏参道鳥居西沿いの古川で開院しました。現在常勤看護師 5 名と医療事務 4 名、週 1 回愛媛大学からの派遣医師とで診療しています。

【病院の特徴】主に、循環器疾患を診療していますが、地域のかかりつけ医として内科疾患全般にも幅広く対応しています。最近では当院通院中の患者さんの約 3 分の 2 が 65 歳以上の高齢者となり、心不全や不整脈、腎不全、認知症を合併した方が毎年増えています。患者さんの心に寄り添い、丁寧に説明を行うことで、スタッフ全員で疾患だけでなく全人的な医療を目指すようにしています。

精査、治療が必要な患者さんは、県立中央病院を含め基幹病院に紹介させていただいており、患者さんから大変感謝されています。今後も、患者さんが「ここに来てよかった」と思っていただけの地域の診療所であり続けたいと思っています。



こみなと胃腸内科

- 所在地 松山市北土居 3 丁目 11-32
- TEL 089-957-8887 ■FAX 089-958-0573
- 診療科目 内科・胃腸内科・内視鏡内科
- 外来診療時間 休診日 木曜午後・土曜午後・日曜・祝日

	月	火	水	木	金	土	日
9:00～12:00	○	○	○	○	○	○	×
14:30～18:00	○	○	○	×	○	×	×

【病院の概要】現在も一緒に診療をしている前院長が、井門町で 30 年以上にわたり「米湊内科胃腸科」として診療を行っていました。2012 年 4 月から松山インターチェンジの近くにある、こみなと整形外科 2 階に移転し、「こみなと胃腸内科」に改め、現在に至っています。

【病院の特徴】主に、腹痛、便秘、下痢の患者さんが来院されます。まずはお話を聞き、次にお腹の診察をします。症状・診察所見にあわせて胃カメラや大腸カメラを用いて原因を調べていきます。ひどい腹痛の患者さんには腹部エコーを用いて緊急性の有無を判断し、緊急度が高い患者さんの場合は、県立中央病院での精密検査を依頼すべく速やかな連携を心がけています。紹介した患者さんの病状が安定し、経過観察や継続治療が必要な場合は自院で対応しています。



当院は、2010 年 10 月 29 日に「地域医療支援病院」の承認を受けています。

このコーナーでは、紹介・逆紹介によって連携している医療機関を随時ご紹介させていただきます。

(紹介順序につきましては、順不同ですのでご了承ください。)

